

巻 頭 言

會 澤 俊 三

このたび、人間関係研究センターより、「人間関係」の創刊号を発行するはこびとなりました。南山短期大学人間関係研究センターは、その名称の示すとおり南山短期大学の人間関係科専任教員をその主要研究員として昭和52年に発足し、以来、人間関係科生の教育実践をふまえながら、人間・人間関係に関する研究を広く学際的・行動科学的に、実践と理論との統合を計りながら推進してきました。この間、研究員のうち5名はすでに欧米での人間関係研修を了え、後続の留学も計画され、センターはその研究と実践に新しい脈動を感じる昨今であります。センターはその本来の使命から象牙の塔にこもるものではなく、進んで目的を共通にする学外研究機関との協力をもち、かつまた、地域社会に開かれたセンターとして、内外の人間関係専門家による10回の公開研究会、27回の人間関係講座を開催してまいりました。これらの事業に対する、地域社会、企業体、教育機関等からの関心は強く、今後更に特定研修、研究開発、コンサルテーション等の強いご要望にも答えて行くことになりましょう。

センターはその発足以来、研究成果の刊行ならびに文献・資料の紹介、更に活動報告なども含めた、人間関係研究センター誌の発行を強く望んでまいりましたが、このような7年の歩みを経て、機も熟し、この度、「人間関係」の名称で発刊するに至った次第であります。

「人間不在」が横行し、人間のあるべき姿をめぐってさまざまに問われ、かつその理論と実践の統合が模索されている今日こそ、このような時代の要請に応えるべく、人間関係研究センターに与えられた課題は、極めて現代的かつ根源的なものであると思われまふ。もとよりこの課題は単にセンターの研究員だけで果たしうるものではなく、多くの方々の量り知れないご協力を必要とすることは申すまでもありません。

発足以来、各方面の方々からのご理解と多大なご指導をえて、当面する種々の懸案を解決しつつ、微力ながら今日まで歩み、今回の「人間関係」の創刊となったわけではありますが、これを新たな出発の機会とし、当研究センターが一步ふみだして、研究と実践に於いて、ますます充実し、学界・教育界にも、社会人教育、地域活動にも巾広く貢献し、日本に於ける人間・人間関係の研究を深めて行く所存であります。各方面からの一層のご理解とご協力を、ご批判と併せて賜わるなら幸いです。